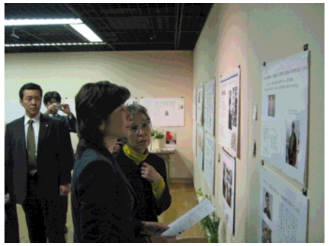
第10回パネル展　大阪枚方

２００９年３月



第10回パネル展　大阪枚方

毎日新聞２００９年３月１５日

〔第3種郵便物認可〕

「自殺防ぐ優しい社会を」

野田担当相も会場を視察

遺書など集めパネル展

18日まで枚方

職場での過労やストレスなどでうつになり、自ら命を絶った50人の遺書や写真、遺族の手記を集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が、枚方市で開かれている。同市の竹井京子さん(59)は、05年に亡くなった長男、大地さん(19)の生前の写真やメモを展示。竹井さんは14日、視察で会場を訪れた野田聖子・自殺対策担当相に「自殺を防ぐには、自助努力だと突き放すのではない、優しい社会をつくらないと」と訴えた。【田倉直彦】

大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」（伊福達彦理事長）の主催。同法人はうつとなり、休職している人や、自殺した人の遺族の支援に取り組んでいる。展示会は全国を巡回中で、今回で10回目。会場には宮城、島根などの遺族らも訪れた。

「自分と同じ仲間がほしい」「自立がとても恐（怖）い」。会場のパネルの一つに展示された大地さんの手書きのメモの一節だ。大地さんは竹井さんの一人息子。「ゆっくりと話す、気のやさしい子」だった。中学1年生の秋から不登校になり、精神科の治療も始めた。定時制高校に入学したが、ほとんど登校できないまま退学。感情も不安定な状態でアルバイトも長続きしなかった。05年10月、知人宅を出た後、行方が分からなくなり、警察から連絡があったのは5日後。自宅近くの公園の池に身を投げて亡くなっていた。

竹井さんは当時「以前よりも落ち着いた様子で、精神科の医師も危険な状況とは言わなかった。変に死を意識させたくなかった」と、あえて深く聞かなかったことを今も悔やむ。14日、会場で「息子にもっと寄り添ってあげたらよかった。家族や友人が示す小さなサインを見逃さないでほしい」と訴えた。

野田担当相は、大地さんのメモを見て竹井さんに「息子さんはもがいてたんですね」と声をかけ、「親はうつなどの専門家ではない。社会とつながっていないと（自殺を）防げない」と語った。

同展は18日まで。午前10時～午後6時（最終日は午後5時）。無料。会場は枚方市岡東町のひらかたサンプラザ3号館5階市民ギャラリー。労災や休職などの相談も受け付ける。

「優しい社会を」と会場で野田聖子・自殺対策担当相（手前）に話す竹井京子さん＝枚方市で

朝日新聞２００９年３月１３日

朝　日　新　聞　2009年（平成21年）3月13日　金曜日　13版△　大

小さなSOSに気付いて

自殺防ぐ展示・語らい

パネル　50人の遺書・遺族手記

過労やうつから自ら命を絶った50人の遺書や写真、遺族の手記を集めたパネル展が、13日から18日まで、枚方市で開かれる。05年に一人息子を亡くした同市の竹井京子さん(59)は14日、自ら会場に赴いて来場者と語り合うつもりだ。体験をひとに話すことで初めて喪失感を癒やすことができたという竹井さんは「家族、友達の小さなSOSに気付く大切さを伝えたい」と思っている。

（三島庸孝）

パネル展「私の中で今、生きているあなた」は、大阪市のNPO「働く者のメンタルヘルス相談室」（伊福達彦理事長）が、働き盛りで命を絶った会社員、医師、教員らを通じて自殺の実態を訴えるために全国で開いている展示会で、今回が10回目。

竹井さんは、パネル展が地元で開かれることを遺族同士の交流の中で知り、初めて参加した。パネルには、19歳で亡くなった大地さんが青いペンで「仲間が欲しい」「テキパキできないのが苦痛」「将来が明日が不安」などと記したメモと一緒に、亡くなる直前の写真を並べた。「会いたい」とつづった自作の詩も掲げ、「おっとりした純粋な子だった。この街で大地が暮らしていたことを知ってもらいたい」と話す。

05年になくなった一人息子・大地さんのパネルに寄り添う竹井京子さん。「写真がきれいに仕上がってうれしい」＝枚方市岡東町

きょう～18日　枚方市民ギャラリー

竹井さんは大地さんと2人暮らしだった。中学校になじめなかった大地さんは1年生の秋から不登校になり、進学した定時制高校は退学。精神科で治療を続けたが、感情の起伏を抑えられないことがあり、アルバイトは長く続かない状態が続いていた。

05年10月30日、知人宅に遊びに行った大地さんは、深夜になっても帰ってこなかった。警察に捜索願を出し、眠れない夜を過ごした。5日後の11月4日午後、警察からの電話で「自宅近くの公園で見つかった」と知らされた。池に飛び込んだ自殺。遺書はなかった。30日の夕方に電話で「寄り道して帰る」「晩ご飯はいらない」と聞いたのが、最後の会話だった。

喪失感は大きく、5階にある自宅ベランダから何度も飛び降りようと思った。半年ほどたって、事故や自殺で家族を亡くした遺族の会合に参加するようになって、やっと「苦しいのは自分だけじゃない」と思えるようになった。「ポカッと心に大きい穴が開いて生きがいがなくなっちゃった。せめてつらい者同士が支えあっていけるようにしたい」。07年には自ら会を立ち上げ、遺族の交流会を開くようになった。

息子の死については今もいろいろと思い返し、悔いることがあるという。

「死にたい」ともらすこともあった大地さんに、正面から取り合わなかった。大地さんの表情は暗くなかったし、死をさらに意識させると思い、話題にするのを避けた。「もっとよく話し合えばよかった」

行方不明になる前日の29日には大地さんはアルバイトの面接に行っていた。数日前から「自信がない」「もうだめだ」と不安がる息子を「大丈夫」と励ました。「面接がうまくいかずに追い詰められたのかもしれない」

「中学生の時に最初のつまずきがあった。違う道もあったはずだが、小さなつまずきが、大きな悲劇につながってしまった。今回のパネル展を、家族も学校も医師も大切な人のつまずきを思い返す機会にしてほしい」

警察庁によると、国内の自殺者は98年から年間3万人を超え続け、07年は3万3093人。都道府県別では、大阪は2241人で東京に次ぐ2位だった。

パネル展は枚方市岡東町のひらかたサンプラザ3号館5階にある市立枚方市民ギャラリーで。午前10時～午後6時（最終日は午後5時まで）。入場無料。休職や労災申請の相談にも応じる。13～15日には遺族が会場で来場者と交流する。14日は自殺防止策を担当する野田聖子担当相が視察に訪れる予定。問い合わせは、伊福理事長（090・1148・9290）へ。